

第2編 財務諸表と企業分析

1種

2種

問 1 次の文中のそれぞれの（ ）に当てはまる語句を下の語群から選びなさい。

財務諸表の1つである（イ）は、一定時点における資金の源泉と使途の関係を一覧するものであり、これによって（ロ）の把握が可能となる。

また、もう1つの形式である（ハ）は、一定期間における企業の利益獲得過程を表現するものであり、これによって（ニ）の評価が把握可能となる。

- | | | |
|--------|--------|----------|
| ①貸借対照表 | ②損益計算書 | ③利益処分計算書 |
| ④安全性 | ⑤収益性 | ⑥経営成績 |
| | | ⑦財政状態 |

問 2 次の文章のうち、正しいものに○を、正しくないものに×をつけなさい。

- 貸借対照表は一定期間における企業の経営成績を明らかにする報告書であり、損益計算書は一定時点における企業の財政状態の一覧表である。
- 貸借対照表を確認することにより、一定時点における企業の財政状態を把握することができる。
- 株式を発行することによる資産調達をエクイティ・ファイナンスという。
- 資産は営業循環基準と1年基準によって流動資産又は固定資産に分類される。
- 営業循環基準とは、企業の本来の事業活動により現金が商品（製品）になり、また現金として戻ってくるような循環過程内において発生したものを固定項目とし、それ以外を流動項目とする基準である。
- 1年基準とは、営業循環基準では分類できないものについて、原則として1年以内に現金化できるものを流動項目、1年を超えて現金化できるものを固定項目とする方法である。
- 貸借対照表において、資産は流動資産、固定資産、繰延資産に分類される。

第2編 財務諸表と企業分析

問1		イ：①、ロ：⑦、ハ：②、ニ：⑥
問2		
1.	×	貸借対照表は一定時点における企業の財政状態の一覧表であり、損益計算書は一定期間における企業の経営成績を明らかにする報告書です。
2.	○	
3.	○	
4.	○	
5.	×	営業循環基準においては、循環過程内において発生したものを流動項目とし、それ以外を固定項目とします。
6.	○	
7.	○	
問3		
1.	×	貸借対照表において、支払手形、買掛金は流動負債です。
2.	×	貸借対照表において、棚卸資産には、仕掛品、原材料も含まれます。
3.	×	記述は仕掛品のものです。貸借対照表において、流動資産は、当座資産、棚卸資産、その他の流動資産からなっています。
4.	×	貸借対照表において、のれんや特許権は無形固定資産です。
5.	○	
問4		
1.	○	
2.	×	貸借対照表において、退職給付に係る負債は固定負債に分類されます。
3.	○	
4.	×	貸借対照表において、のれん及び特許権は無形固定資産に分類されます。
5.	○	
6.	○	
7.	○	